

2023 フクシマ連帯キャラバン

2023.3.17~3.21



2023 フクシマ連帯キャラバン報告書

2023年のキャラバンは数年ぶりに全国規模での行動となり、北海道から沖縄まで多くの青年部の仲間が集い行動できたこと、被災地の福島県民として大変嬉しく感じました。この数年間コロナ禍で制限がある中、キャラバンとしての火を絶やさぬよう地元で、また隣県で行動を続けてきたことが報われたように感じました。今回キャラバン隊の団長として行動しましたが仲間の皆さんの協力、そして各地域の全港湾を初め様々な労働団体の支えがなければ成功はなかったと思います。改めて、大変ありがとうございました。

行動の振り返りとして、実際に被災された方の生の声を聞けたこと、現地を見て学んだこと。署名街宣や、自治体要請で学んだこと、感じたことがたくさんあったと思います。被災地福島でも確実に脱原発社会への気持ちが薄れてきていると改めて感じました。今後自分達が脱原発と共に、どのような未来を訴えていくのか考えて行く必要があると感じました。

最後に今後の青年部の中には被災した時、小さかった子、まだ生まれていなかった子が増えてきます。危険性を伝え、経験を語り継いでいくこともこのキャラバンに参加してる者の使命だと思っております。全港湾として今後も反戦、反核の声を先頭に立てあげていきたいと思っております。

全港湾東北地方小名浜支部 キャラバン隊団長 矢内 誠也



原発事故を風化させない

2023 フクシマ連帯キャラバンに参加して

今回2023年3月17~21日に開催されたフクシマ連帯キャラバンに初めて参加しました。

現地の視察や福島駅での署名活動、茨城県の各自治体に要請行動、東京でのデモ行進など様々な活動を行いました。現地の視察では、交通機関等だけが修復されており、住民の方々の家が放置されているだけでなく、立ち入り禁止区域すらも残っている状態でした。各自治体要請行動を行った際、自治体は国の動きを見ながら検討していくという回答が多く、被災地の方々や地元復興等に真剣に向き合っているのかと不安になりました。

しかし、この5日間を通して、全員で団結し活動していくことで二度と同じ原発事故を起こさないように進めることは可能だと感じました。原発事故を風化させない為にも、今回自分が学んだことを若い世代に受け継ぎ、少しでも早く脱原発に向けた運動を展開していきたいと思っております。

本活動に参加し、熱い想いのある全国の仲間達とキャラバン隊をできたことが本当に嬉しかったです。現地に赴き、自分の目で見て肌で感じることの大切さも改めて実感することができました。最後になりますが、フクシマキャラバンを開催及び進行をしてくださった東北青年部の皆様、参加された青年部の皆様ありがとうございました。

全日本港湾労働組合四国地本青年部 部長 菅 智彦



第0047号 2023年5月15日発行
全日本港湾労働組合 発行日：随時

